

3 大麦・大豆・はとむぎ

【大麦】

(1) 活動の重点指導事項

ア 収量・品質の向上

(2) 活動の経過と実績

ア 収量・品質の向上

- (ア) 苗立数確保のため、排水溝の設置による播種時の土壌条件向上、排水溝の連結等の基本技術の徹底を指導した。
- (イ) 過剰分けつ防止のため、適期播種（10月中～下旬）を基本とし、播種時期に応じた適正な播種量を指導した。
- (ウ) 適正穂数確保のため、気象や生育状況に応じた消雪後追肥を施肥方法別（一発肥料及び分施）に現地講習会や営農だよりで指導し、上乘せ追肥の実施率が向上した。
- (エ) 排水対策実施の徹底を啓発するため、サブソイラ施行による栽培実証ほを設置した。
- (オ) 連作田を中心に、土づくり資材の投入による地力向上対策、イネ科難防除雑草の対策を指導した。



排水対策実証圃



収穫適期調査

六条大麦の作付状況と収量

市町名	作付面積 (ha)			10a 当たりの収量 (kg/10a)			生産量 (t)		
	28年産	29年産	30年産	28年産	29年産	30年産	28年産	29年産	30年産
小松市	317	328	319	332	343	219	1,050	1,126	700
加賀市	34	34	28	273	282	154	93	96	43
能美市	184	206	186	403	415	216	761	855	401
川北町	133	148	145	406	418	300	568	619	435
合計	671	716	678	364	377	233	2,472	2,696	1,579

(北陸農政局)

検査結果

		総検査数量 (kg)	等級比率(%)		
			1等	2等	規格外
27年産		2,230,278	78.3	—	21.7
28年産		2,473,991	65.2	—	34.8
29年産		2,478,858	77.4	—	22.6
30年産	J A小松市	663,980	84.3	—	15.7
	J A加賀	42,500	84.7	—	15.3
	J A能美	855,287	77.4	—	22.6
	J A根上	10,312	74.4	—	25.6
	合計	1,572,079	80.5	—	19.5

注：規格外は2.4mm（または2.35mm）調製網下、2等は種子調製の2等麦
（南加賀農林総合事務所調べ）

【小麦】

小麦は刈り取りが梅雨時期と重なり雨による品質の低下が心配されるため、1983年（昭和58年）以来、栽培が敬遠されてきたが、小松市の特産品である小松うどんに利用するため、J A小松市では平成22年より再開した。

南加賀農林総合事務所では、小麦の栽培に当たって、①刈り取りを梅雨の晴れ間の1日で終了できるよう、1地区当たりの作付面積を5ha以内とするよう指導しているほか、②小麦栽培マニュアルの作成、管理情報の発信等の支援を行った。

なお、小麦は金沢市内の業者で製粉されている。

小麦（ゆきちから等）の作付状況と収量

	作付面積 (ha)	10a当たり 収量 (kg/10a)	生産量(t) (うち規格外)
25年産	33.0	297	108.1 (10.2)
26年産	25.0	407	107.1 (5.4)
27年産	28.5	256	73.1 (4.0)
28年産	36.3	400	145.3 (5.1)
29年産	37.7	335	126.0 (5.3)
30年産	39.2	296	116.2 (15.4)

（南加賀農林総合事務所調べ）



収穫期の小麦圃場

【はとむぎ】

はとむぎは、能美市で栽培され、はとむぎ茶に加工、販売されている。

南加賀農林総合事務所では、播種や収穫、病害虫防除など、栽培管理について指導を行った。

はとむぎの作付状況と収量の推移

	H25	H26	H27	H28	H29	H30
作付面積(ha)	3.2	3.2	2.7	3.5	3.5	3.5
収穫量(t)	10.6	9.8	9.3	12.3	12.0	8.0
収量(kg/10a)	330	305	346	351	343	229
栽培農家数(戸)	9	8	8	9	9	9

（南加賀農林総合事務所調べ）

【大豆】

(1) 活動の重点指導事項

- ア 収量・品質の向上
- イ 需要者ニーズに対応した代替品種等の普及定着

(2) 活動の経過と実績

- ア 収量・品質の向上
 - (ア) 大豆栽培技術研修会を開催し、「里のほほえみ」の品種特性に合わせた適期・適量の播種を指導した。
 - (イ) 苗立の安定確保のため、排水溝の早期設置と碎土率の向上について指導した。また、初期生育の確保のため、種子処理剤(フタスジヒメハムシ対策)の使用を推進した。
 - (ウ) 被害粒低減対策として、ウコンノメイガ、マメシクイガ等に対応した防除実施を指導した。
 - (エ) 開花期以降の畝間かん水の効果を栽培講習会や営農だよりで示し、実施を促した。
 - (オ) 生産者参加型の刈取適期調査の実施や地区毎の成熟期の把握を行い、適期収穫の実施を指導した。また、生産者が適期を容易に判断できるように刈取適期判断早見表を提示した。
 - (カ) サブソイラ、アップカットロータリー等の排水対策、狭畦栽培の実証ほを設置するとともに、排水対策技術の実演会を実施した。
- イ 需要者ニーズに対応した代替品種等の普及定着
 - (ア) 奨励品種「里のほほえみ」の作付面積が 549ha（管内全面積の 97%）と拡大した。



大豆栽培技術研修会



「里のほほえみ」の作付面積拡大



排水対策の実演会



狭畦栽培の実証

大豆の作付状況

市町名	28年産			29年産			30年産		
	普通栽培	麦跡栽培	計	普通栽培	麦跡栽培	計	普通栽培	麦跡栽培	計
小松市	68	140	208	73	157	230	60	157	217
加賀市	145	0	145	160	4	164	154	4	158
能美市	51	51	102	37	52	89			83
川北町	20	66	86	59	62	121			110
合計	284	257	541	329	275	604	265	303	568

(南加賀農林総合事務所調べ)

大豆の収量および生産量

市町名	10a当たりの収量(kg)			生産量(t)		
	28年産	29年産	30年産	28年産	29年産	30年産
小松市	231	178	160	480	409	346
加賀市	148	144	122	215	236	193
能美市	201	188	176	205	167	146
川北町	214	210	184	184	254	202
合計	200	176	156	1,084	1,066	887

(北陸農政局)

検査結果 (H31年2月末現在)

	総検査数量 (kg)	等級比率(%)				粒別比率(%)				
		1等	2等	3等	特定加工用	大粒	中粒	小粒	極小粒	
27年産	923,130	0.7	5.5	38.2	55.7	94.9	4.4	0.6	—	
28年産	1,057,890	0.0	0.0	10.4	89.1	74.3	23.4	2.3	—	
29年産	990,360	0.0	0.0	11.5	88.2	93.4	6.1	0.6	—	
30年産	J A小松市	331,350	0.0	0.0	12.7	87.3	88.4	10.0	1.6	—
	J A加賀	169,440	0.0	0.0	9.5	90.5	85.9	12.9	1.2	—
	J A能美	277,570	0.0	0.0	12.0	88.0	91.0	8.4	0.6	—
	J A根上	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	778,360	0.0	0.0	11.5	88.5	88.8	10.1	1.1	—	

(南加賀農林総合事務所調べ)